

# 平成 30 年度事業報告

公益財団法人鈴木万平糖尿病財団は、「糖尿病分野に関する研究者の国際的研究交流を助成し、あわせて我が国における同分野の研究者の育成を図ることにより、糖尿病学研究の一層の推進を図り、もって学術の向上発展に寄与する」ことを目的として、定款第 4 条に定める事業を実施している。

平成 30 年度（平成 30 年 4 月 1 日～平成 31 年 3 月 31 日）は、基本財産及び特定資産等の運用益並びに特定資産の取り崩しにより次に掲げる事業を実施した。

## 1. 定款第 4 条に定める公益目的事業

助成事業（公 1）	(1) 糖尿病の研究に従事する研究者の海外留学に対する助成 (2) 糖尿病の研究に従事する外国人研究者の招聘に対する助成 (3) 糖尿病に関する会議・シンポジウムに対する助成 (4) 糖尿病に関する調査研究に対する助成
褒賞事業（公 2）	糖尿病の予防・治療等における国内の優れた業績に対する褒賞
褒賞事業（公 3）	糖尿病に関する国内外の優秀な研究実績に対する褒賞

## 2. 平成 30 年度公益目的事業

助成事業については、平成 29 年度第 2 回理事会（平成 29 年 12 月 13 日）において承認された内容に基づき実施した。

平成 30 年度海外留学助成者 5 名のうち 1 名が家庭の事情により 3 ヶ月足らずで留学を中止し帰国したことにより、助成は 1,000,000 円で終了した。また、平成 29 年度海外留学助成者 6 名のうち 1 名が留学先の都合により研究の継続が困難となり 1 年間で帰国したため、助成は 1 年間で終了した。

一方、平成 30 年度会議・シンポジウム助成 5 件のうち 1 件について、主催者から開催後に大幅な黒字のため返還の申し出があり、助成金（1,000,000 円）が返還された。

外国人研究者招聘助成、調査研究助成は計画のとおり実施した。

国内褒賞事業については、平成 29 年 10 月 12 日開催の国内褒賞審査委員会で受賞候補者 2 名が選出され、平成 29 年度第 2 回理事会（平成 29 年 12 月 3 日）において承認された。

平成 30 年度（第 11 回）糖尿病療養指導鈴木万平賞表彰式並びに記念パーティーを平成 30 年 10 月 16 日に霞山会館（千代田区）において開催した。

なお、平成 30 年度から褒賞件数を 3 件から 2 件とし、受賞候補の推薦者に日本糖尿病療養指導士認定機構の理事を追加することとした。

国際褒賞事業については、平成 30 年 7 月 31 日開催の国際褒賞審査委員会で受賞候補者 1 名が選出され、平成 30 年度第 2 回理事会（平成 30 年 12 月 5 日）において承認された。

平成 30 年度（第 11 回）鈴木万平記念糖尿病国際賞表彰式・記念講演会並びに記念パーティーを平成 31 年 3 月 6 日に経団連会館（千代田区）において開催した。

平成 30 年度公益目的事業の総括

公益目的事業	金額	内容
<b>助成事業</b>		
海外留学助成 1.	16,000,000 円	平成 30 年度新規 (@400 万円×4 名)
	1,000,000 円	〃 (@100 万円×1 名)
同上 2.	20,000,000 円	平成 29 年度継続 (@400 万円×5 名)
外国人研究者招聘助成	1,000,000 円	@100 万円×1 件
会議・シンポジウム助成	4,000,000 円	@100 万円×4 件
調査研究助成 1.	7,500,000 円	平成 30 年度新規 (@250 万円×3 件)
同上 2.	7,500,000 円	平成 29 年度継続 (@250 万円×3 件)
同上 3.	7,500,000 円	平成 28 年度継続 (@250 万円×3 件)
事業推進費	305,484 円	募集関連費用
小 計	64,805,484 円	
選考委員会・面接選考	2,495,714 円	開催関連費用
合 計	67,301,198 円	
<b>褒賞事業 (国内褒賞)</b>		
第 11 回糖尿病療養指導鈴木万平賞	6,257,040 円	正賞楯、副賞、記念品
	2,232,525 円	表彰式関連費用
	654,172 円	募集関連費用
小 計	9,143,737 円	
第 12 回国内褒賞審査委員会	929,082 円	開催関連費用
合 計	10,072,819 円	
<b>褒賞事業 (国際褒賞)</b>		
第 11 回鈴木万平記念糖尿病国際賞	17,457,240 円	正賞楯、副賞、記念品
	8,239,378 円	表彰式関連費用
	2,937,202 円	募集関連費用
	3,240,000 円	業務委託費
小 計	31,873,820 円	
第 11 回国際褒賞審査委員会	3,020,341 円	開催関係費用
合 計	34,894,161 円	
総 計	112,268,178 円	

各公益目的事業の詳細は、附属明細書のとおりである。

## 附属明細書

### 1) 助成事業

海外留学助成 - 1 (平成 30 年度新規分 5 名、うち 1 名助成中止)

※助成開始月は留学出発月、助成期間は 2 年間

氏名・所属	研究課題・研究項目・研究機関・研究指導者・助成期間
<p style="text-align: center;">ながの がく 長野 学</p> <p>広島大学大学院 医歯薬保健学研究院 分子内科学</p>	<p>研究課題： 褐色細胞の分化と機能を制御するエピジェネティック機構の解明</p> <p>研究項目： 脂肪細胞、肥満、インスリン抵抗性、エピジェネティクス</p> <p>研究機関： Kajimura Lab, UCSF Diabetes Center</p> <p>研究指導者： Associate Professor Shingo Kajimura</p> <p>助成期間： 自 平成 30 年 7 月 1 日 至 平成 30 年 9 月 30 日 (3 ヶ月間)</p> <p style="text-align: center;">※助成中止</p>
<p style="text-align: center;">きかもと けんいち 坂本 憲一</p> <p>千葉大学大学院 医学研究院 総合医科学講座</p>	<p>研究課題： 臓器間神経ネットワークに着目した糖尿病、肥満状態におけるサルコペニア増悪機序の解明</p> <p>研究項目： 糖尿病、肥満、サルコペニア、臓器連関</p> <p>研究機関： Icahn School of Medicine at Mount Sinai</p> <p>研究指導者： Professor Christoph Buettner</p> <p>助成期間： 自 平成 30 年 5 月 1 日 至 令和 2 年 4 月 30 日</p>
<p style="text-align: center;">とみた ようへい 富田 洋平</p> <p>慶応義塾大学医学部 眼科学教室</p>	<p>研究課題： FGF21 に着目した糖尿病網膜症病態機序の解明</p> <p>研究項目： 糖尿病網膜症と脂質代謝</p> <p>研究機関： Harvard Medical School, Boston Children's Hospital</p> <p>研究指導者： Professor Lois Smith</p> <p>助成期間： 自 平成 30 年 4 月 1 日 至 令和 2 年 3 月 31 日</p>
<p style="text-align: center;">くわばら れい 栗原 令</p> <p>京都大学大学院 工学研究科 高分子化学</p>	<p>研究課題： 免疫抑制剤を用いない皮下への膵島移植の実現</p> <p>研究項目： 膵島移植、再生医療、医用高分子</p> <p>研究機関： The University Medical Center Groningen</p> <p>研究指導者： Professor Paul de Vos</p> <p>助成期間： 自 平成 30 年 6 月 1 日 至 令和 2 年 5 月 31 日</p>
<p style="text-align: center;">おぐり やすお 小栗 靖生</p> <p>京都大学大学院 医学研究科 糖尿病・内分泌・ 栄養内科学</p>	<p>研究課題： 糖代謝制御臓器としての褐色脂肪組織の役割の解明および臨床応用に向けた基盤構築</p> <p>研究項目： 糖代謝能に影響を及ぼす褐色脂肪由来因子の同定および機能解析</p> <p>研究機関： University of California, San Francisco</p> <p>研究指導者： Associate Professor Shingo Kajimura</p> <p>助成期間： 自 平成 30 年 4 月 1 日 至 令和 2 年 3 月 31 日</p>

海外留学助成 - 2 (平成 29 年度継続分 6 名、うち 1 名助成中止)

※助成開始月は留学出発月、助成期間は 2 年間

氏名・所属	研究課題・研究項目・研究機関・研究指導者・助成期間
<p>すぎもと きたる 杉本 哲 京都府立医科大学 大学院医学研究科 小児発達医学</p>	<p>研究課題: Small for gestational age (SGA) 児の肥満・メタボリック シンδροーム発症の機序解明</p> <p>研究項目: Small for gestational age (SGA) 児の成人期の肥満・メタボリック シンδροーム発症の機序に褐色脂肪細胞が関与するか検証する</p> <p>研究機関: Joslin Diabetes Center , Harvard Medical School</p> <p>研究指導者: Associate Professor Yu-Hua Tseng</p> <p>助成期間: 自 平成 29 年 9 月 1 日 至 令和元年 8 月 31 日</p>
<p>もりかわ しゅんたろう 森川 俊太郎 北海道大学 大学院医学研究科 小児科学分野</p>	<p>研究課題: Wolfram 症候群の病態解明、ならびに単一遺伝子異常による新生児・ 乳児糖尿病発症機序の研究</p> <p>研究項目: (1) 小児ストレス応答における WFS1 の役割と、その障害による 膵β細胞アポトーシス機序の解明 (2) iPS 細胞を用いた drug screening と、治療に有用な小胞体ストレス マーカーの探索</p> <p>研究機関: Washington University</p> <p>研究指導者: Professor Fumihiko Urano</p> <p>助成期間: 自 平成 29 年 10 月 1 日 至 令和元年 9 月 30 日</p>
<p>たじま かずき 田島 一樹 横浜市立大学 附属病院 内分泌糖尿病内科</p>	<p>研究課題: ベージュ脂肪細胞からの分泌蛋白による膵β細胞制御機構の解明</p> <p>研究項目: 膵β細胞量を制御する新規ベージュカインの同定と機能解析</p> <p>研究機関: University of California, San Francisco</p> <p>研究指導者: Associate Professor Shingo Kajimura</p> <p>助成期間: 自 平成 29 年 7 月 1 日 至 平成 31 年 6 月 30 日</p>
<p>ばてん めぐ 馬殿 恵 大阪大学 大学院医学系研究科 内分泌・代謝内科学</p>	<p>研究課題: 糖尿病発症における人種差を規定する因子の解明と新たな治療 アプローチへの応用</p> <p>研究項目: アジア人が欧米人よりも軽度の肥満で糖尿病を発症する原因の解明</p> <p>研究機関: Harvard T.H. Chan School of Public Health</p> <p>研究指導者: Professor Frank B. Hu</p> <p>助成期間: 自 平成 30 年 3 月 1 日 至 令和 2 年 2 月 29 日</p>
<p>おおうち あゆみ 大内 亜由美 順天堂大学 医学部附属浦安病院 眼科</p>	<p>研究課題: 網膜マイクログリアに着目した糖尿病網膜症進展の病態解明と新規 治療法の開発</p> <p>研究項目: 糖尿病網膜症</p> <p>研究機関: The Scripps Research Institute</p> <p>研究指導者: Professor Martin Friedlander</p> <p>助成期間: 自 平成 29 年 9 月 1 日 至 令和元年 8 月 31 日</p>

氏名・所属	研究課題・研究項目・研究機関・研究指導者・助成期間
<small>てらわき ゆういち</small> 寺脇 悠一 福岡大学病院 内分泌・糖尿病内科	研究課題： テロメラーゼの研究 研究項目： 血管内皮細胞におけるテロメラーゼの機能解明と動脈硬化形成における役割の検証 研究機関： University of Pittsburgh 研究指導者： Associate Professor Dennis C. Bruemmer 助成期間： 自 平成 29 年 9 月 1 日 至 平成 30 年 8 月 31 日 (1年間) ※助成中止

### 外国人研究者招聘助成（平成 30 年度 1 件）

招聘外国人研究者	受入責任者	研究課題
		招聘目的
University of Perugia, Perugia (Italy) Assistant Professor Buratta Sandra	東京大学大学院薬学系研究科 衛生化学教室 教授 <small>あらい ひろゆき</small> 新井 洋由	疾患診断マーカーの可能性としての細胞外小胞 同研究室との共同研究、同研究室研究者・同学部学生への講義及び討議

### 会議・シンポジウム助成（平成 30 年度 5 件、うち 1 件助成金返還）

会合名・開催日・場所	責任者	参加人数	主催
第 33 回日本糖尿病・肥満動物学会 年次学術集会 平成 31 年 3 月 15 日～16 日 九州大学病院百年講堂（福岡市）	横浜市立大学大学院医学研究科 分子内分泌・糖尿病内科学 教授 <small>てらうち やすお</small> 寺内 康夫	219 名	日本糖尿病・肥満動物学会
第 23 回アディポサイエンス・シンポジウム 平成 30 年 8 月 18 日 千里ライフサイエンスセンター （豊中市）	東京大学大学院医学系研究科 糖尿病・代謝内科 教授 <small>やまうち としまさ</small> 山内 敏正	247 名	日本肥満学会
第 30 回日本糖尿病性腎症研究会 平成 30 年 12 月 1 日～2 日 都市センターホテル（千代田区）	金沢医科大学 糖尿病・内分泌内科学 教授 <small>こや だいすけ</small> 古家 大祐	573 名	日本糖尿病性腎症研究会

会合名・開催日・場所	責任者	参加人数	主催
Asia-Pacific Diabetes and Obesity Study Group symposium 2018 平成 30 年 10 月 8 日～9 日 神戸国際会議場（神戸市）	神戸大学大学院医学研究科 内科学講座 糖尿病・内分泌内科学部門 教授 おがわ わたる 小川 渉	29 名 その他	Asia-Pacific Diabetes and Obesity Study Group
第 18 回日本先進糖尿病治療研究会 平成 30 年 9 月 29 日～30 日 神戸商工会議所（神戸市）  ※助成金返還	神戸大学医学部附属病院 糖尿病・内分泌内科 助教 ひろた ゆうし 廣田 勇士	200 名	日本先進糖尿病治療研究会

### 調査研究助成 - 1（平成 30 年度新規分 3 件）

研究施設・責任者	研究タイトル・助成期間
東京大学大学院 医学系研究科 助教 やまだ ともひで 山田 朋英	研究タイトル： 人工知能を用いた糖尿病臨床エビデンスの統合と体系化： リアルタイムシステマティックレビューに向けた網羅的医学文献 検索の迅速化と最適化 助成期間： 自 平成 30 年 4 月 至 令和 3 年 3 月 （3 年間） ⇒ 平成 31 年 3 月 （1 年間） ※次年度以降助成中止 （平成 31 年度・令和元年度公益目的事業 1）助成事業（公 1）参照）
東京大学医科学 研究所 准教授 ひらた よしひろ 平田 喜裕	研究タイトル： 糖尿病関連消化器癌の細菌叢に関する包括的検討 助成期間： 自 平成 30 年 4 月 至 令和 3 年 3 月 （3 年間）
関西電力医学研究所 部長 くわた ひとし 桑田 仁司	研究タイトル： アジア・オセアニア地域における糖尿病患者の病態と栄養摂取に 関する国際共同調査研究 助成期間： 自 平成 30 年 4 月 至 平成 31 年 3 月 （1 年間） ⇒ 令和 3 年 3 月 （3 年間） ※助成期間延長 （平成 31 年度・令和元年度公益目的事業 1）助成事業（公 1）参照）

## 調査研究助成 - 2 (平成 29 年度継続分 3 件)

研究施設・責任者	研究タイトル・助成期間
新潟大学大学院 医歯学総合研究科 教授 みなみの とおる 南野 徹	研究タイトル： セマフォリンを標的とした新規糖尿病診断・治療の開発 助成期間： 自 平成 29 年 4 月 至 平成 31 年 3 月 (2 年間)
近畿大学医学部 講師 のうそう しんすけ 能宗 伸輔	研究タイトル： 1 型糖尿病の病型診断および $\beta$ 細胞破壊の新規バイオマーカーの 同定と臨床応用 助成期間： 自 平成 29 年 4 月 至 令和 2 年 3 月 (3 年間)
国立成育医療研究 センター 医長 あらた なおこ 荒田 尚子	研究タイトル： 妊娠糖尿病・糖尿病合併妊娠の妊娠転帰および母児の長期予後に 関する登録データベース構築による多施設前向き研究 助成期間： 自 平成 29 年 4 月 至 令和 2 年 3 月 (3 年間)

## 調査研究助成 - 3 (平成 28 年度継続分 3 件)

研究施設・責任者	研究タイトル・助成期間
国立成育医療研究 センター 部長 ふかみ まき 深見 真紀	研究タイトル： 新規アプローチ法による小児期発症 1 型糖尿病の発症機序の解明 助成期間： 自 平成 28 年 4 月 至 平成 31 年 3 月 (3 年間)
糖尿病データ マネジメント研究会 代表理事 まねがわ ひろし 前川 聡	研究タイトル： 全国多施設大規模共同研究による日本人糖尿病の死亡・心血管疾患 発症の前向き観察研究によるリスク解析 助成期間： 自 平成 28 年 4 月 至 平成 31 年 3 月 (3 年間)
千葉大学大学院 医学研究院 助教 まえざわ よしろう 前澤 善朗	研究タイトル： 糖尿病性腎症ならびに糖尿病大血管障害の発症進展を制御する バイオマーカーの探索 助成期間： 自 平成 28 年 4 月 至 平成 31 年 3 月 (3 年間)

## 2) 褒賞事業

### 平成30年度（第11回）糖尿病療養指導鈴木万平賞

#### 【個人】

受賞者	道口 佐多子 どうぐち さたこ
推薦者	正木 治恵（日本糖尿病教育・看護学会 理事） まさき はるえ
受賞理由	<p>病院の糖尿病センター開設時の教育入院システム発足スタッフとしての経験、患者指導の充実と教育入院システム構築・運用経験を生かし、那珂記念クリニックで部門間の意思疎通を改善すべく看護師、管理栄養士、薬剤師、臨床検査技師といった指導スタッフを療養指導部として一元管理すること、散発的になりがちな外来指導へのパスの導入などの成果を上げた。このパスはカード型パスとして考案され、2016年からは日本糖尿病協会の標準的指導ツールとして位置づけられた「糖尿病療養指導カードシステム」として発展した。茨城県糖尿病協会での指導者研修会の経験を生かし、コメディカル研修会の設立に中心的に参画し、その後の茨城県糖尿病療養指導士会の初代会長として就任した。熱意を懸けた研修会は地域指導者のレベルアップおよび認定更新に寄与している。茨城県糖尿病協会の理事、茨城県 CDE-L 認定委員等を務め、地道な活動を継続して地域の糖尿病療養指導に貢献している。これらの業績は本賞に値する。</p>

#### 【個人】

受賞者	島 健二 しま けんじ
推薦者	谷澤 幸生（日本糖尿病学会 理事） たにざわ ゆきお
受賞理由	<p>徳島県医師会糖尿病対策班を立ち上げ、療養指導活動を先導した。糖尿病対策推進会議のめざす活動を全国に先駆けて実施し、その組織を創始した功績は大きい。自治体と協力して糖尿病と療養指導に関する広報・周知につとめ、医療連携構築のために、特に保健師が参入できる連携パスの作成に貢献した。また、運動療法の重要性に着目し、策定に関与した「阿波踊り体操」、「プラス 1000 歩県民運動推進会」と「歩数記録ダイアリー」は広く県民に認知・活用され、自らもマラソンを実践している。</p> <p>「糖尿病診療への早期介入マニュアル」作成、講演会、徳島県医師会糖尿病認定医制度の策定、地域糖尿病療養指導士認定事業を開始し、療養指導を推進した。徳島県の僻地診療にも携わるなど、糖尿病療養指導の普及と糖尿病対策で長年自ら活発に活動し、その活動が継続・発展する基盤を作った。これらの業績は本賞に値する。</p>



平成 30 年度（第 11 回）鈴木万平記念糖尿病国際賞

受賞者	Phillip E. Scherer, PhD Professor, Department of Internal Medicine Gifford O. Touchstone Jr. and Randolph G. Touchstone Distinguished Chair in Diabetes Research Director, Touchstone Diabetes Center The University of Texas Southwestern Medical Center (USA)
推薦者	Kai Sun Assistant Professor, Center for Metabolic and Degenerative Diseases, Institute of Molecular Medicine, The University of Texas Health Science Center at Houston (USA)
受賞理由	同博士による、アディポネクチンの先駆的な同定、アディポネクチンの抗糖尿病機能とその分子機構発見への貢献、および最近の科学上の達成は、糖尿病と肥満さらにはエネルギー恒常性についての理解を深め、かつ広めたと高く評価されました。

### 3. 平成 31 年度／令和元年度公益目的事業

#### 1) 助成事業（公 1）

平成 30 年度第 1 回理事会（平成 30 年 6 月 4 日）で募集要領等の承認を得て、8 月 1 日から 9 月 28 日まで 4 つの助成事業の募集を行った。

申請資料に基づき平成 30 年 10 月 29 日の選考委員会で、平成 31 年度助成候補（海外留学助成 6 名、会議・シンポジウム助成 5 件、調査研究助成 3 件）が選出された。また同委員会で中間報告に基づき、調査研究助成（平成 29 年度 2 件、平成 30 年度 3 件）の助成継続が了承された。

なお、平成 30 年度調査研究助成のうち 1 件は、応募時の研究期間が 1 年間であったが 3 年間への延長申請があり、審議の結果、助成延長可と判定された。

一方、外国人研究者招聘助成の申請はなかった。

今回の選考委員会から利益相反への対応をより徹底するために選考委員を 2 名増員し、7 名で選考を行った。

平成 29 年度・30 年度調査研究助成のうち各々 1 件について、利益相反に抵触すると判断されたため、当該選考委員は調査研究助成の事前評価及び審議に加わらなかった。

海外留学助成候補者 6 名については、平成 30 年 11 月 8 日の面接選考会にて語学力を審査し全員適格と判定した。なお、うち 1 名が研究指導者の事情により受入れが困難になったとのことで、申請した研究が可能な機関に留学先を変更した。

これら助成候補は、平成 30 年度第 2 回理事会（平成 30 年 12 月 5 日）で審議され、選考委員会での選考結果のとおり承認された。

同理事会承認後、平成 30 年度調査研究助成 3 件中 1 件の研究者が海外留学のために研究継続が困難との理由で、平成 31 年度以降の助成（2,500,000 円×2 年度分）を辞退した。

今回から海外留学助成決定者オリエンテーションを実施することとし、助成決定証書の授与、提出書類等の説明等を平成 31 年 1 月 18 日に行った。同様に、平成 31 年度調査研究助成決定者を個別に訪問し助成決定証書の授与や今後の提出書類等の説明を実施した。

#### 2) 褒賞事業（公 2）：第 12 回糖尿病療養指導鈴木万平賞

平成 30 年度第 1 回理事会（平成 30 年 6 月 4 日）で募集要領等の承認を得て、7 月 17 日から 9 月 14 日まで募集を行った。

推薦資料に基づき平成 30 年 10 月 16 日の国内褒賞審査委員会で審査を行い、受賞候補者 2 名を選出した。

今回の審査委員会から 3 名の審査委員が交代し、再任の審査委員 4 名と併せ 7 名で審査を実施した。

受賞候補者は、平成 30 年度第 2 回理事会（平成 30 年 12 月 5 日）で審議され、審査委員会の審査結果のとおり承認された。

#### 3) 褒賞事業（公 3）：第 12 回鈴木万平記念糖尿病国際賞

平成 30 年度第 1 回理事会（平成 30 年 6 月 4 日）で募集要領等の承認を得た。

また、募集期間について、平成 30 年度第 2 回理事会（平成 30 年 12 月 5 日）で 4 月 1 日から 7 月 1 日までとすることが承認された。

## 附属明細書

### 1) 助成事業 (公1)

海外留学助成 (平成 31 年度/令和元年度 6 名、うち 1 名留学先変更)

※助成開始月は留学出発月、助成期間は 2 年間

氏名・所属	研究課題・研究項目・研究機関・研究指導者・助成期間
<p style="text-align: center;">三瀬 広記 岡山大学大学院 医歯薬学総合研究科 腎・免疫・内分泌 代謝内科学</p>	<p>研究課題： 糖尿病腎症におけるミトコンドリア機能制御</p> <p>研究項目： 糖尿病腎症における Dynamin related protein (Drp1) のミトコンドリアダイナミクス制御に関する研究～トランスジェニックマウスを用いた Drp1 Ser600 リン酸化の全身・腎臓への影響の検討と Drp1 Ser600 リン酸化によるミトコンドリア機能障害に関与する相互作用蛋白の同定～</p> <p>研究機関： The University of Texas MD Anderson Cancer Center</p> <p>研究指導者： Professor Farhad R. Danesh</p> <p>助成期間： 自 令和元年 6 月 1 日 至 令和 3 年 5 月 31 日</p>
<p style="text-align: center;">佐藤 眞洋 千葉大学大学院 医学研究院 循環器内科学</p>	<p>研究課題： 末梢血 1 細胞解析を用いた糖尿病性心筋症診断ツールの開発</p> <p>研究項目： 糖尿病は心不全の危険因子だが、無症候段階での心不全発症リスクは把握できない。心不全初期は炎症反応に伴い免疫細胞プロファイルが変化する。本研究は糖尿病性心筋症患者の末梢血免疫細胞変化を 1 細胞解析技術で検出、Big Data と統合し早期診断を可能とする事を目的とする。</p> <p>研究機関： Brigham and Women's Hospital, Harvard Medical School</p> <p>研究指導者： Chief of Cardiovascular Medicine Calum A. MacRae</p> <p>助成期間： 自 平成 31 年 4 月 1 日 至 令和 3 年 3 月 31 日</p>
<p style="text-align: center;">井田 昌吾 滋賀医科大学 内科学講座 糖尿病内分泌・ 腎臓内科</p>	<p>研究課題： ヒト ES 細胞を用いた新規膵島移植治療法の開発</p> <p>研究項目： 膵前駆細胞まで分化させたヒト ES 細胞を直接または micro-encapsulation device という特殊なカプセルを用いて種々の部位に移植し、治療効果や分化への影響を検討する。</p> <p>研究機関： The University of British Columbia</p> <p>研究指導者： Professor Timothy J. Kieffer</p> <p>助成期間： 自 平成 31 年 4 月 1 日 至 令和 3 年 3 月 31 日</p>
<p style="text-align: center;">渡邊 一史 金沢大学 新学術創成研究機構</p>	<p>研究課題： 糖尿病における膵臓 β 細胞脱分化メカニズムの解明</p> <p>研究項目： 2 型糖尿病患者では、膵 β 細胞数が減少するが、その詳細なメカニズムは不明な点が多い。本研究では、ミトコンドリア機能に関与する Cyb5r3 の β 細胞脱分化における重要性を明らかにする。β 細胞脱分化メカニズムの解明は、β 細胞数の維持を目的とした新規糖尿病治療の開発に繋がる。</p> <p>研究機関： Columbia University</p> <p>研究指導者： Professor Domenico Accili</p> <p>助成期間： 自 令和元年 7 月 1 日 至 令和 3 年 6 月 30 日</p>

氏名・所属	研究課題・研究項目・研究機関・研究指導者・助成期間
佐久間 一基 千葉大学大学院 医学研究院 細胞治療内科学	研究課題： 鉄代謝制御を介した肝臓におけるインスリン抵抗性の分子機構の解明 研究項目： 非アルコール性脂肪性肝疾患の病態における p53-FDXR の活性化による鉄代謝制御を介した肝臓におけるインスリン抵抗性の分子機構の解明 研究機関： Columbia University ⇒ Yale University ※留学先変更 研究指導者： Professor Carol Prives ⇒ Professor Gerald I. Shulman 助成期間： 自 令和元年9月1日 至 令和3年8月31日
後藤 聡 大阪大学大学院 医学系研究科 脳神経感覚器外科 (眼科学教室)	研究課題： 近視による糖尿病網脈絡膜症の進行抑制機序の解明 研究項目： 近視が糖尿病網脈絡膜症を抑制すると報告されているが、病態メカニズムの解明には至っていない。糖尿病網膜症モデルマウスを用いて、近視モデルを誘導し網膜・脈絡膜の解析から病態解明を目指す。 研究機関： University of California Berkeley's School of Optometry 研究指導者： Professor Christine Wildsoet 助成期間： 自 令和元年6月1日 至 令和3年5月31日

### 会議・シンポジウム助成（平成31年度／令和元年度 5件）

会合名・開催日・会場	主催責任者	参加予定人数	主催機関
第31回日本糖尿病性腎症研究会 令和元年11月30日～12月1日 岡山コンベンションセンター (岡山市)	岡山大学 学長 まきの ひろふみ 槇野 博史	450名	日本糖尿病性腎症研究会
第47回日本膝・膝島移植研究会 令和2年3月6日～7日 電気ビルみらいホール (福岡市)	福岡大学医学部 再生・移植医学講座 教授 こだま しょうた 小玉 正太	180名	日本膝・膝島移植研究会
第34回日本糖尿病・肥満動物学会 年次学術集会 令和2年1月31日～2月1日 高崎シティギャラリー (高崎市)	横浜市立大学大学院医学研究科 分子内分泌・糖尿病内科学 教授 てらうち やすお 寺内 康夫	300名	日本糖尿病・肥満動物学会
第35回日本糖尿病・妊娠学会 年次学術集会 令和元年11月22日～23日 浅草ビューホテル (台東区)	東京女子医科大学 東医療センター小児科 部長 すぎはら しげたか 杉原 茂孝	600名	日本糖尿病・妊娠学会

会合名・開催日・会場	主催責任者	参加予定人数	主催機関
第17回1型糖尿病研究会 〔第19回日本先進糖尿病治療研究会と合同開催〕 令和元年11月2日～3日 海運クラブ（千代田区）	東京女子医科大学 糖尿病センター 講師 みうら じゅんのすけ 三浦 順之助	100名	1型糖尿病研究会

### 調査研究助成（平成31年度／令和元年度 3件）

研究責任者	研究課題・研究期間・助成期間・助成金額
順天堂大学大学院 教授 わただ ひろたか 綿田 裕孝	研究課題： 血糖変動と心血管イベント発症の関連性を検討する前向き観察研究 研究期間： 自平成30年4月 至 令和6年12月 助成期間： 自平成31年4月 至 令和4年3月（3年間） 助成金額： 1年目：250万円、2年目：250万円、3年目：250万円
北海道大学大学院 医学研究院 准教授 もりかわ まさる 森川 守	研究課題： I. 糖尿病合併妊娠ならびに妊娠糖尿病における内服治療に関する全国調査（後方視的検討） II. 肥満女性に対する減量手術後妊娠におけるGDM発症に関する全国調査（後方視的検討） 研究期間： 自平成31年4月 至 令和3年3月 助成期間： 自平成31年4月 至 令和3年3月（2年間） 助成金額： 1年目：60万円、2年目：40万円
東京大学大学院 医学系研究科 特任教授 かどわき たかし 門脇 孝	研究課題： 2型糖尿病に対する厳格な多因子介入が血管合併症と生命予後に及ぼす長期的な影響の検討 研究期間： 自平成28年4月 至 令和3年6月 助成期間： 自平成31年4月 至 令和4年3月（3年間） 助成金額： 1年目：250万円、2年目：250万円、3年目：250万円

## 2) 褒賞事業(公2)

### 第12回糖尿病療養指導鈴木万平賞

#### 【個人】

受賞者	うちがた やすこ 内潟 安子 (東京女子医科大学東医療センター 病院長)
推薦者	せいの ゆたか 清野 裕 (日本糖尿病協会 理事長)
受賞理由	若年糖尿病(ヤング糖尿病)患者の診療と研究に長年従事して日本のヤング糖尿病領域を確立し、これら患者の心身のケアを新しいジャンルの糖尿病治療として体系化して成果を上げてきた。また、全国規模では「若い糖尿病患者さんのためのグループミーティング」を継続して開催し、患者のピアカウンセリングや医療者の研修として役立つなど数多くの活動で貢献してきた。さらに、ヤング糖尿病患者への偏見を無くすために社会に働きかけ、患者の生活の質(QOL)を守る取り組みを行ってきた。1型のみならず2型のヤング糖尿病患者の治療環境の重要性を説いた功績は高く評価される。これらのヤング糖尿病患者に対する支援活動は一貫性があり、内潟氏なくしてヤング糖尿病領域は確立できなかつたと考えられ、これらの業績は本賞に値する。

#### 【個人】

受賞者	おぬま とみお 小沼 富男 (順天堂大学医学部附属順天堂 東京江東高齢者医療センター 特任教授)
推薦者	わただ ひろたか 綿田 裕孝 (日本糖尿病学会 理事)
受賞理由	青森県において患者会を設立して糖尿病療養指導活動を広め、東北小児糖尿病サマーキャンプ等の活動を通して東北地方で多くの人材を育成した。また、順天堂大学附属病院において教育入院システムを構築し、糖尿病療養指導チームを組織化・活性化することなどにより糖尿病療養指導体制を強化した。さらに日本糖尿病療養指導士認定機構設立時から12年間に亘りCDEJの認定・育成の推進に努めた。東京東部3区では「区東部糖尿病医療連携検討委員会」を設立し当該地区における医療連携及び糖尿病療養指導活動に大いに貢献した。これまでの活動には一貫性があり、その認知度、波及効果も大きく、これらの業績は本賞に値する。